

## JMAT - 更なる連携を

十日町市中魚沼郡医師会長

池田 透

### 継続を希望する事項

石巻赤十字病院で18:00からミーティングに参加し最新被害情報、他エリアチームの医療活動を知る事が出来、翌朝8:00からのエリア幹事医師会とのミーティングにより、その時点に於けるエリアの課題を認識出来た。有意義であった。

22:00消灯。板敷きフロアの大部屋に全国の医療チームメンバーと一同で仮眠した。避難所の被災者の目線に少しでも近づけたことは、翌日からの避難所での被災者医療活動に役立った。被災地初日の夜は救護所から40kmにある宿泊施設的位置確認に時間がかかった。夜間にも関わらず県医師会に電話対応して頂き、情報を入手できた。現地では想定外の状況が発生し易いので、夜間の通信体制は重要。

### 総括

①当初5名（医師1、看護師2、薬剤師1、事務1）で1チームを編成するのが基準であった。全体的に看護師、薬剤師の参加が少なく規定どおりの編成が困難な状況にあった。JMATに参加の意思表示した4月当時は、まだ女川原発の放射能被曝の危険が消え去らない状況であった。危険を顧みず積極的に自ら参加表明した女性職

員に感謝であった。自院内スタッフで1チーム編成できたので、通常業務の延長上で災害医療支援活動がスムーズに行われた。JMATに参加するチームは、「移動手段、食料、宿泊については自己完結で行なう」のが基本であるが、十日町市から緊急時の水、非常食、ナビ付きの車と運転手を手配して頂き有難かった。後日災害医療支援活動の報告会を行った。地元行政との連携が重要と考える。

- ②巡回する救護所と医療支援スタッフの宿泊施設が遠い（40km）。交通渋滞になると救護所まで1時間はかかるので再検討が必要。宿泊施設は仮眠スペースがあれば良いので、20km以内位に何とかならないものか。
- ③日々状況が変わるので、状況に合わせた支援が出来るよう、毎日の確実な新しい情報入手に心掛ける。県医師会からの情報は大変役に立った。
- ④被災地医療支援は災害発生直後にDMAT、超急性期にDMAT、災害拠点病院、急性期、安定期には災害拠点病院、JMATに振り分けると医療支援の効率が良いと考える。
- ⑤日医JMATに参加して様々な出会い協力があり、「災害地域医療は連携なり」を実感した。